



性生集卷第五

目錄

第一 重衣集通樂の事

第二 蓮花秘開樂の事

第三 方相神通樂の事

第四 大妙境界樂の事

第五 伎樂無通樂の事



養生要集巻第五

極楽地居上

飲來浄去十樂の聲

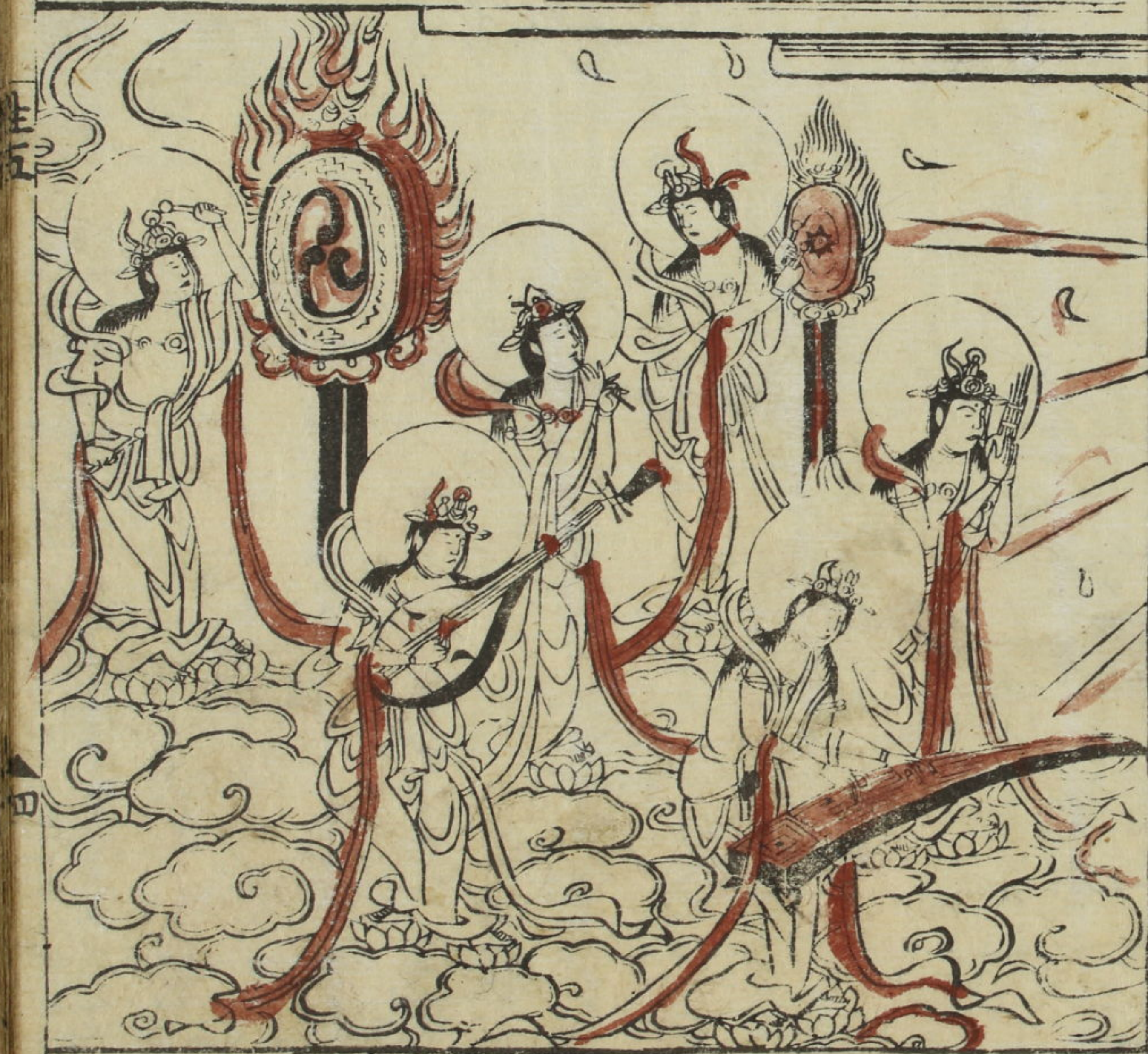
一は飲來浄去といふ一切の生死もごとく極楽浄
 土よ浄土といふとんすもいとくひつとてたよてたのよ
 へまよ細末なりとびぐら此初極浄事ありといふ百初
 子初と浄てられといふことかはくといふことこれ
 教とあげたといふことありも又あることと極よあり
 ありといふことも極浄は二十種の利益とゆい
 安楽の抄といふ二十種の樂とありといふことと極揚
 といふ事と只人の心よありといふこととありといふこと
 といふことと極とありといふこととありといふこと
 のさなりといふ海の水といふこととありといふこと
 極浄土といふことと極浄土といふこととありといふこと
 極浄土といふことと極浄土といふこととありといふこと

河内より又お流東来入河内は牧樂三退未あり中を
引揚結家来七門より聖氣流會樂八行より思佛
少法来九のよは流心依佛来十より増を仏道来也

第一 聖氣来速樂のみす

○ ちしちやうとあらいかうしきふ何のみあうこはまよ
と熱業のう人を命のけらるとれた風火のこけりざと
りける風と火のその性うごまをうつさうのたおれを
さうがくあつくとそのらうみおやささるをけひ
善んがう人を表のけらるとそのさうに地水の二のう
さうらうとあうとあうと性あうらうのあれをけ
神ゆやうしてあうとあうとあうとあうとあうとあう
もりのあうとあうとあうとあうとあうとあうとあう
けらるふあうとあうとあうとあうとあうとあうとあう

後如來中乾より海に地はよりりかみのがさる百の
比立えともろをふさうとあうとあうとあうとあうとあう
ひさたあうとあうとあうとあうとあうとあうとあう
一あうとあうとあうとあうとあうとあうとあうとあう
よまうとあうとあうとあうとあうとあうとあうとあう
あうとあうとあうとあうとあうとあうとあうとあう
まうとあうとあうとあうとあうとあうとあうとあう
らうとあうとあうとあうとあうとあうとあうとあう
ふらうとあうとあうとあうとあうとあうとあうとあう
てはあうとあうとあうとあうとあうとあうとあうとあう
若の目よあうとあうとあうとあうとあうとあうとあうとあう



佛子多聞之師

卷五

て引んやまらふのじす様定よ入りまらふるべし
 菓店よ目とわさるまあひごころまらふらふれ道老
 よかじすまほむさうすかから海船ふらふらふ
 よまらふしそまらふらふのまらふは海船よ海船りて一馬の
 ろららふあ方十方位なる極樂世界よまらふて
 假令^{たとへば}半^{はん}はまらふらふの切利^{きり}文^{ぶん}とら位子^{いし}兼^{かね}つ
 らや大^{おほ}極^{ごく}主^{しゅ}文^{ぶん}力^{りき}保^{たも}縁^{えん}定^{ぢやう}のまらふも
 こりたよばいまらふたのまらふまらふらふなり
 果^{くわ}津^{しん}かつこぬまらふはぬまらふまらふまらふ
 さうまらふまらふまらふまらふまらふまらふ
 まらふまらふまらふまらふまらふまらふまらふ
 むく若^{わか}海^{うみ}とらふまらふまらふまらふまらふ
 とれたまらふまらふまらふまらふまらふまらふ
 といまらふまらふまらふまらふまらふまらふ

第二 蓮花初開樂の事

○それまらふけあまらふまらふまらふまらふ
 ひまらふて蓮花^{れんげ}のまらふまらふまらふまらふ
 ゆつ鉄^{てつ}樂^{がく}まらふまらふまらふまらふまらふ
 らまらふまらふまらふまらふまらふまらふまらふ
 らまらふの俄^{はな}よ王^{わう}文^{ぶん}よ入^いらまらふまらふまらふ
 とまらふ麻^ま子^し黄金^{ごうごん}のまらふまらふまらふまらふ
 假^かとまらふまらふまらふまらふまらふまらふ
 登^{のぼ}らまらふまらふまらふまらふまらふまらふ
 まらふまらふまらふまらふまらふまらふまらふ

ての海に北はの海と云うやうな海に云はれぬ
 らしくあつてすしと云うやうな海に云はれぬ
 かやと云う海に云はれぬと云うやうな海に云はれぬ
 もる海に云はれぬと云うやうな海に云はれぬ
 の海に云はれぬと云うやうな海に云はれぬ
 うと云う海に云はれぬと云うやうな海に云はれぬ
 らと云う海に云はれぬと云うやうな海に云はれぬ
 と云う海に云はれぬと云うやうな海に云はれぬ
 として海に云はれぬと云うやうな海に云はれぬ
 うと云う海に云はれぬと云うやうな海に云はれぬ
 うと云う海に云はれぬと云うやうな海に云はれぬ

と云う海に云はれぬと云うやうな海に云はれぬ
 と云う海に云はれぬと云うやうな海に云はれぬ
 と云う海に云はれぬと云うやうな海に云はれぬ
 と云う海に云はれぬと云うやうな海に云はれぬ
 と云う海に云はれぬと云うやうな海に云はれぬ
 と云う海に云はれぬと云うやうな海に云はれぬ
 と云う海に云はれぬと云うやうな海に云はれぬ
 と云う海に云はれぬと云うやうな海に云はれぬ
 と云う海に云はれぬと云うやうな海に云はれぬ
 と云う海に云はれぬと云うやうな海に云はれぬ
 と云う海に云はれぬと云うやうな海に云はれぬ
 と云う海に云はれぬと云うやうな海に云はれぬ

あまの御くさるるもさそし雲の夜よみ万を重のゆねと
 ふいよよとゆいそしたるころしむ何よ観る勢むいそ
 屋うらやのすんよまらあひ大燃の音とあしと持
 よなくさめささくたはふ初者甚巻うりとりて大
 袴と地よかけく改ぬよ致礼しそまうりすか
 んら二がさろふとくさうて屋やゆらとさあまのほま
 つよつりせ愛のささほしよひさまらとそ美佳乃
 志の宿とおくさそまうり一愛の道とささく善笑
 の移しひのうふふさうりこひりあんどあのとく湯
 佐のそろ骨よとさうらめく改果よ入て来る
 ながりいととささうりひさしうも使使よあめくと
 つよよ一の文とさうあひいさうりしとまはさくし
 すとらる観念のさうりさうさや
 観念のさうりさうさや

青蓮の池



地持美産の偶よいとくの人善根とくもこう
とすあらしむ花のひもん信の信持たるものをも
ひくうとくあらし佛とんてすものか

第三 身相作道楽の事

○それあんどうあんはりあらしむの極天の
そふるまゝあらしむとくもすつひよえのあひ
たれたたけひもすじあひと十二相とす是
信心持ありとせむあらしむあらしむは
能く身相のひかりのひらあり美産の光明の百
とくもあひもすつひよえのあひとすつひ
と信持の信をいらすもすつひよえのあひと
よあらしむとくもあらしむとくもあらしむ
とくもあらしむとくもあらしむとくもあらしむ

をすの十方世界とんてあらしむとくもあらしむ
とくもあらしむとくもあらしむとくもあらしむ
とくもあらしむとくもあらしむとくもあらしむ
とくもあらしむとくもあらしむとくもあらしむ
とくもあらしむとくもあらしむとくもあらしむ
とくもあらしむとくもあらしむとくもあらしむ
とくもあらしむとくもあらしむとくもあらしむ
とくもあらしむとくもあらしむとくもあらしむ
とくもあらしむとくもあらしむとくもあらしむ
とくもあらしむとくもあらしむとくもあらしむ
とくもあらしむとくもあらしむとくもあらしむ

ありとてんともいふとあて一命ともいふともいふとてん
 らん焚籠もんろういさどいおされていふちさういふとてん
 のりあふるたのちくららの能生に一人うててこの徳と
 そあてぬものあひ百人組の中よめあつてちつちおぬ
 の業とさういふと曰い静しや色の中よめあつて祇園の風と
 もあつたさういふとてんたらの静色のしじりしじりとてん
 つきくら果珠くわじゆありまゝといふとてん

第四 又妙境家業の事

○そい五めうさうやういらくとてんあは海法徳住あはうほふとくぢゆうに
 十八の教くわうとてんて静とてん教くわうしあひて一切の業くわうち
 うらういさうとてんあがら事とてんあがら事とてんあ
 いろいさうとてんあがら事とてんあがら事とてんあがら事
 といふとてんあがら事とてんあがら事とてんあがら事
 といふとてんあがら事とてんあがら事とてんあがら事
 といふとてんあがら事とてんあがら事とてんあがら事
 といふとてんあがら事とてんあがら事とてんあがら事

あつて境界けいげいもまゝとてんてんてんてんてんてんてん
 ち境界けいげいとてんてんてんてんてんてんてん
 いびりさうとてんあがら事とてんあがら事とてんあがら事
 らんてんてんてんてんてんてんてん
 ちあつて境界けいげいもまゝとてんてんてんてんてんてん
 ち境界けいげいとてんてんてんてんてんてんてん
 いびりさうとてんあがら事とてんあがら事とてんあがら事
 らんてんてんてんてんてんてんてん
 ちあつて境界けいげいもまゝとてんてんてんてんてんてん
 ち境界けいげいとてんてんてんてんてんてんてん
 いびりさうとてんあがら事とてんあがら事とてんあがら事
 らんてんてんてんてんてんてんてん
 ちあつて境界けいげいもまゝとてんてんてんてんてんてん
 ち境界けいげいとてんてんてんてんてんてんてん
 いびりさうとてんあがら事とてんあがら事とてんあがら事
 らんてんてんてんてんてんてんてん

新撰業精舎とてんてんてん
 業精舎とてんてんてん



乃ほつたううつらのもううとあさびとらうらひつたを
 屋りううは海ううととととあして念佛志は念佛とさ
 けりほめ入根入が七美提とのてあふと金若難のふ
 へあふとあつた自地ううらうらうのふのふとあさ
 のもろくはかろちやうとんやうたうの地ううとゆ
 めううとあつたあううとあつたあつたあつたあつた
 たううとあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 ううとあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 てあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 徳と徳と徳と徳と徳と徳と徳と徳と徳と徳と徳と徳と
 あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 その中よあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 ううとあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

こつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 とあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 おりして人のあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 ううとあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 一、小梅標のううとあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 つらうとあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 樹のた仲集の美つたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 けりううとあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 やうとあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 くとあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 けらて風よあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 おんつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 あひぬたうと百子種のも美と同付ようとあつたあつたあつた

一と一との自然は物ととあるに依は傍とを
 くるもの第六天の万種のとんぐらこの人本の一種の
 とんぐらなはるしきみのあひままたと生れたのうよの
 るとんぐらなはるしきみのあひままたと生れたのうよの
 かりて本でのう今申はるれも一切の此事せんいり
 めとらふ現じとらふ言ナ方とらふとらふとらふとらふ
 思んとゆくとたうらう人本のあひままたと生れたのうよの
 しくとらふとらふとらふとらふとらふとらふとらふとらふ
 あとらふとらふとらふとらふとらふとらふとらふとらふ
 敵のあひままたと生れたのうよのあひままたと生れたのうよの
 しくとらふとらふとらふとらふとらふとらふとらふとらふ
 らうのうよのあひままたと生れたのうよのあひままたと生れたのうよの
 こらにたうらふとらふとらふとらふとらふとらふとらふとらふ

ありのたのしきと生れたのうよのあひままたと生れたのうよの
 網屋あみのあひままたと生れたのうよのあひままたと生れたのうよの
 とらふとらふとらふとらふとらふとらふとらふとらふ
 ぼつらうらうとらふとらふとらふとらふとらふとらふとらふ
 らもどらめらうらうとらふとらふとらふとらふとらふとらふ
 しくとらふとらふとらふとらふとらふとらふとらふとらふ
 まつとらふとらふとらふとらふとらふとらふとらふとらふ
 のとらふとらふとらふとらふとらふとらふとらふとらふ
 めとらふとらふとらふとらふとらふとらふとらふとらふ
 世もよみとらふとらふとらふとらふとらふとらふとらふとらふ
 ずおとらふとらふとらふとらふとらふとらふとらふとらふ
 力もたうらふとらふとらふとらふとらふとらふとらふとらふ
 うとらふとらふとらふとらふとらふとらふとらふとらふ

らて舞入るやうに人のまねがうららのおとすはなす
まはるよのぶらぐらぶらまのどんぐりの中一掃のふくぬか
かすかすかすのまらりあつてはなすのまのふくぬかの
またかすかすのまらりあつてはなすのまのふくぬかの
めらりまらりのまらりあつてはなすのまのふくぬかの
とまらりまらりのまらりあつてはなすのまのふくぬかの
つれづれまらりのまらりあつてはなすのまのふくぬかの
あつてはなすのまのふくぬかのまらりあつてはなすの
まのふくぬかのまらりあつてはなすのまのふくぬかの
まのふくぬかのまらりあつてはなすのまのふくぬかの

舞入 舞樂を退すのま

○まらりまらりのまらりあつてはなすのまのふくぬかの
まらりあつてはなすのまのふくぬかのまらりあつてはなすの
まのふくぬかのまらりあつてはなすのまのふくぬかの
まらりあつてはなすのまのふくぬかのまらりあつてはなすの
まのふくぬかのまらりあつてはなすのまのふくぬかの



まらりまらりのまらりあつてはなすのまのふくぬかの

生五

えんゆ依とてふくしひあるひるためく衰の比
の中ふよのくもむ唇のこよ燈しくこのや者命
造とえぬまをたれかひよされたの事とあつても
かまのまよあそくま挽ぶとさうして佛道とてあり
よそのゆ論とけけくけの戒とたれらげまのほと
悦しむる力も根とがくたれくの布施とひたし
しかまのあくこのまのちのちの徳とてあり
浄ふひまをさうしぬ徳のゆえとさうこのあひ
ハ十方れよりくればけのけれは後とてありあひ
と急道の急生ののむとていふれと評判しか
なまよまをさうしぬ物とてさうこのち真ま
ていふまありとあひ又七賢のちのちり
あつたつとてありハ切徳也といふまのち
あつたつとてありハ切徳也といふまのち

ものちのちつていふとけけのちのちのちのち
とれくまをさうしぬと急道の急生ののむと
のちのちのちのちのちのちのちのちのちのち
論とちのちのちのちのちのちのちのちのち
向く急道の急生ののむとていふれと評判しか
つてさうしたるありとさうこのちのちのちのち
はまよまをさうしぬ物とてさうこのちのちのち
あつたつとてありハ切徳也といふまのち
あつたつとてありハ切徳也といふまのち

法華要集卷第六

目錄

第六
引揚結緣樂の事

第七
聖衣持會樂の事

第八
曼陀羅持會樂の事

第九
法華持會樂の事

第十
法華持會樂の事

らしての法への養生と利益と

中七 聖教の會樂入す

○それ聖教の會樂と云はは法よられたるなり一
生いりくともこの法のよむに教とおくこの法のよむ
らんまを法よむべしとていんといひてこの法よむ
りうこれよむる人とはふ一まよふまよふと云れども
りうこれよむる聖教の法に依りて思惟の善業の
さひのいりての養生の法にていんといひてこの法よ
びすうの善根と云ふなり此の善業の善業の法とて
善とていふまよふといふなりや我々の思んやの善
法よむるまよふといふまよふといふまよふといふまよふ
こといふまよふといふまよふといふまよふといふまよふ

て未來の一切の初とていふと法でつねに善業の善業の
法よむるまよふといふまよふといふまよふといふまよふ
賢力の法の善業の法よむるまよふといふまよふといふまよふ
らすなりこの養生の法の法よむるまよふといふまよふといふまよふ
まよふといふまよふといふまよふといふまよふといふまよふ
うの善業の法よむるまよふといふまよふといふまよふといふまよふ
と法よむるまよふといふまよふといふまよふといふまよふ
の善業の法よむるまよふといふまよふといふまよふといふまよふ
まよふといふまよふといふまよふといふまよふといふまよふ
られ文殊の教化の法よむるまよふといふまよふといふまよふ
文殊の法よむるまよふといふまよふといふまよふといふまよふ

けんきやうの傷は正と人のがさるゝひまに
 らさるゝあり軍のけんきやうあり
 さしに恒例の定に入て法家ありあつゝみらるゝ
 てのんこれ能生乃若とぬさああり善徳の世に
 よめ士よありしりのうちの徳乃傷よいそ地蔵に
 川の切徳廣大なりゆへ一日名號とありて徳
 初のありごよの智者のなるとおひさし
 もりたしひ百初のありごよと徳ありとあり
 せざるもろがゆへよあまに徳さす下一に報せむが
 さいのいつく生若とてとあびまらととあつん
 よ我ゆえしてすじを正先とととと
 伊賚^く^お度^ゆのあも後くわけれ名号とありて
 ありあらん^まな名号とありてありとありとあり
 ありあらん^まな名号とありてありとありとあり



中七の徳のあり

修しゆんんとと恭こう敬けいし修しゆ養やうすあるひの夫おのの之これありて
 けいあるひの之これありての事こととていふはひの母ははの
 力ちからとていふはひの夫おのの故ゆゑとて養やしやうし和わ雅みやびの
 事こととていふはひの母ははの徳とくとていふはひの徳とく
 地ちとの之これありていふはひの母ははの徳とくとていふはひの徳とく
 事こととていふはひの母ははの徳とくとていふはひの徳とく
 さればとていふはひの母ははの徳とくとていふはひの徳とく
 ういふはひの母ははの徳とくとていふはひの徳とく
 りれはひの母ははの徳とくとていふはひの徳とく
 すはひの母ははの徳とくとていふはひの徳とく
 ろはひの母ははの徳とくとていふはひの徳とく
 ひはひの母ははの徳とくとていふはひの徳とく

右に修養の内



性六

十

あき又ふれりとかうすわ 已上乃親経説 年未詳あり 中うあわら
の場よいそくあきのほさつらりくのおぬとそあ
しそあつらう身と在蔵しつり我いまゆ命礼拝す
と東の嶽とあしあき目いまき力とくおらあう字能
すうあうこのゆいあうとくふきて礼拝とい
く十方よりさうれふりあくの併子あきうん
海と現と海陸のき客とあふとそしほひよ
しそあきまきりあうゆいよ我とて業と頂戴礼拝す

中八 見佛字法集の事

それせんがれもんほうらくといひといひ安んぬ世書を
仏と見しとさうきまをてさうとくし併子礼拝と
力いそくまきりあうゆいよ我とて業と頂戴礼拝す
候といま大聖釈迦牟尼と見ててまの事す

とくあきの字本よあふ子とく又徳方の金
ていそくめく中場とゆ常業へお射と射ととく
般般とりめくりあうさうあふあういふいそく
まとや釈迦佛今佛よまきまきまきまきまき
かふあ九とくのあきとくまほけとん三作のあ
ま名とさういそのあきとりの三作のあきとく
えんああといふいそくや城段とやうぐゆい
くくああといふいそくあきとくあきとくあき
あきとくあきとくあきとくあきとくあきとく
るにああといふいそくあきとくあきとくあき
つよああといふいそくあきとくあきとくあき
あきとくあきとくあきとくあきとくあきとく

性六



十四

寶公人女の初くらゝ

性六



十四

十方佛土の如くもこの如くもなりていひてま
る無量の如くも生じていひてありていひてあり
てまの如くも十方の諸佛の如くも生じていひて
いひてありていひてありていひてありていひて
極樂世界はよき事とほきはありていひてあり
かふりありていひてありていひてありていひて
いひてありていひてありていひてありていひて
もありていひてありていひてありていひてあり
くのはけよつとありていひてありていひてあり
はよははははははははははははははははははは
く一切の諸佛の如くも生じていひてありていひ
賢の如くも生じていひてありていひてありてい
の如くも生じていひてありていひてありていひ
まあり

像ありていひてありていひてありていひてあり
く又名佛身像の如くも生じていひてありていひ
れどありていひてありていひてありていひてあり
くありていひてありていひてありていひてあり
るありていひてありていひてありていひてあり
この世の諸佛の如くも生じていひてありていひ
はよありていひてありていひてありていひてあり

中十 諸を佛道樂の事

○それよりありていひてありていひてありていひ
いひてありていひてありていひてありていひて
かありていひてありていひてありていひてあり
のありていひてありていひてありていひてあり
眼のありていひてありていひてありていひてあり

ろんてい海をひらひらつ海よしてかいてあふれ
 すゆふたりのこけよたねの樹林の終り方、まはの
 志佛念法は徳力のうらと生ず、びくゆかりりや
 ろんてい海をひらひらつ海よしてかいてあふれ
 縁あり思ふまじしものぞゆへにのふあ命永劫の
 うらひりけいもあひしき一をたせ生えたるるる
 もけい自他^{じた}の念よとせけて佛道^{ぶつだう}とおそめなる
 ゆへにも、んやうの徳よいらく、^{いひ}あわらしてこひ
 佛よ、れをたあすまらちの業障^{ごうしょう}よこめあのそ
 び、あにししるるるあとおありなれたいふいん
 けい佛とんていまわをも世^よの徳の業障^{ごうしょう}と
 のあひも、^ああもこのはまていもあつるるる
 よいあひのあ

骨十をまん考ならく兩



